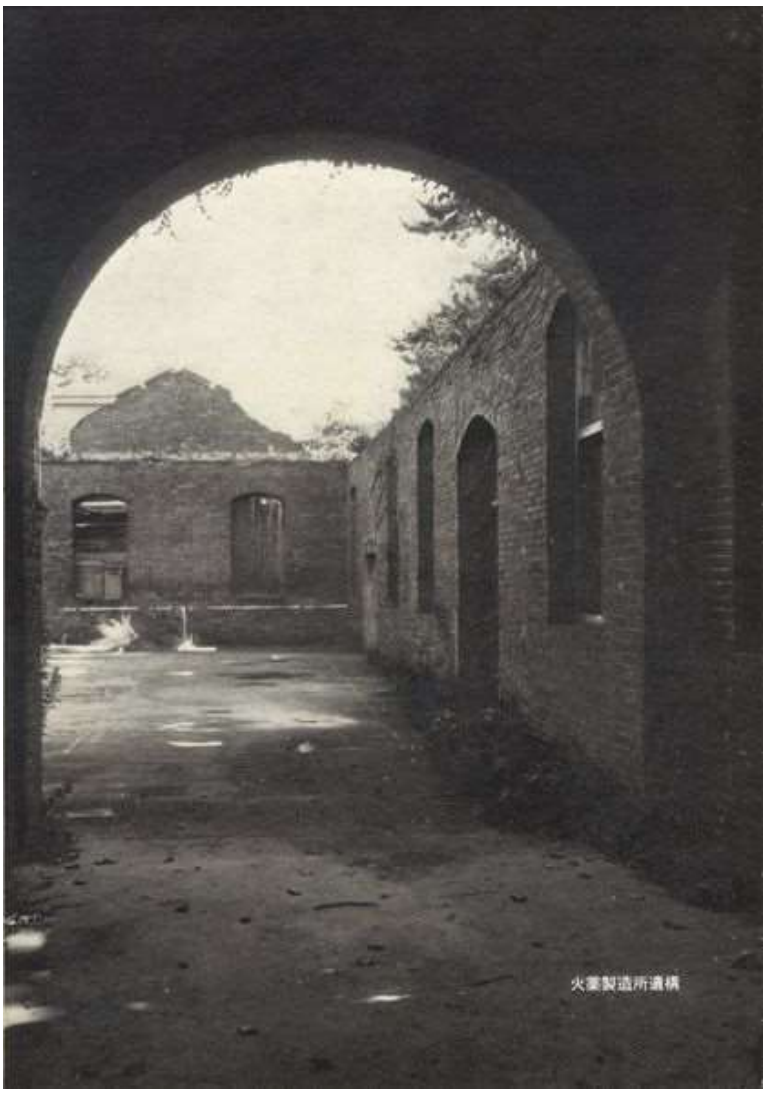
６.「宇治の火薬」とロシア革命

フェイスブック掲載日 2021/8/2

宇治の火薬を調べるために、宇治市立図書館で宇治市史の年表（528p）を見ていると、大正 6 年 1 月（1917）、「ロシアから火薬製造の注文を受けた宇治火薬製造所が、ドイツのスパイを警戒して戒厳状態となる。」との見出しに目がとまりました。1917 年と言えばロシア革命の年です。



さらに宇治市史第4巻「大正期の火薬製造所」の項（333p）には、「大正 3 年(1914)に第一次世界大戦が起こると、日本軍の直接の戦闘行為は微々たるものであったが、同盟国であるロシアからの注文はとりわけ多量で、戦争開始前に比べ大正 6 年には職工数 3,000 人と倍増していた＜大朝＝大阪朝日新聞社 大正 6・1・22＞。」とあります。

京都市醍醐中央図書館で偶然にも見つけた「大阪砲兵工廠物語－創立 150 年 新聞記事を中心に」（久保在久著、2019.5.1 耕文社）を読んでいると、同じ時期、「大阪砲兵工廠には大正 3(1914)年秋、ロシアから小銃購入の発注があり、大正 4(1915)年夏に至り更に大量の注文が来た。小銃 100 万挺、弾薬 1 億発、見積額は 1 億円にも達する巨大なものであった。ロシアは第一次世界大戦で疲弊した西欧諸国に依頼することができず、米国は単価が高

いため止むなく日本に発注せざるを得なかったらしい。」「大正 5(1916)年 1 月、ロシアの皇帝陛下ニコライ2世の名代として大公ミハイロウイッチが京都経由で、大阪砲兵工廠を来訪。来訪の目的はロシアが注文した兵器の製造状況の視察であった。」とありました。

皇帝ニコライ2世による専制体制が敷かれていたロシアでは、「平和とパン」を求める国民の要求が高まり、1917 年 3 月（旧暦 2 月）、首都ペトログラード（現サンクトペテルブルク）で労働者のストとデモが起き、これをきっかけに帝政ロマノフ王朝が崩壊、臨時政府が樹立され（「二月革命」）たが、臨時政府は戦争（第一次世界大戦）を継続したため、即時講和・食糧・土地を求める労働者・農民の運動の高まりの中で、レーニンが率いるボリシェビキ（ロシア社会民主労働党内の革命派）の指導のもとで労働者・兵士らが 11 月 7 日（旧暦 10 月）、武装蜂起して臨時政府を打倒。労働者・兵士・農民ソビエト(ロシア語で「会議」の意)が権力を握った、とは歴史の事実です。

歴史の流れを見る限り、宇治や大阪で作られた火薬や武器がレーニンが率いるボリシェビキに向けられたと想像するに難くありません。宇治の火薬を調べるうちに、こんな世界史につながっていることに、改めて驚きを感じています。